



# サイバー防犯ボランティア向け 闇バイト学習用クイズアプリケーション

## Educational Quiz App for Cyber Safety Volunteers on Illegal Part-Time Jobs

文教大学サイバー防犯ボランティア × 茅ヶ崎警察署 少年補導員協会  
Bunkyo University Cyber Safety Volunteer × Chigasaki Police Juvenile Support Liaison Association

### 1 | サイバー防犯ボランティアとは?

サイバー防犯ボランティアとは、都道府県警察に登録して活動をするボランティア団体で、以下の3種類の活動を行います。

- 教育活動：犯罪被害防止のために学校等での防犯教室の実施
- 広報啓発活動：警察イベント等における広報啓発の活動
- 浄化活動：違法有害情報対策のためのシステム構築や通報

2024年度末の時点で全国で301団体が活動しており、その活動数は7,298人です。特に学生の活動が7割を占めています。文教大学ではサイバー防犯ボランティアを設定しており、教育活動では神奈川県内の小中学校を中心としてサイバー防犯教室を実施しており、浄化活動では違法有害情報の対策システムの構築等を行います。

### 2 | 少年補導員について

少年補導員とは各警察署から委嘱され、青少年の健全育成のために警察と連携して行うボランティア活動です。文教大学サイバー防犯ボランティアの構成員の多くが茅ヶ崎警察署で少年補導員として委嘱を受けています。少年補導員の活動はサイバー防犯ボランティアと重複する部分もありますが、街頭補導、立ち直り支援、少年相談等の業務があります。

近年は街頭補導の対象となるような場所の減少ということもあり、少年補導の場所もインターネット上を対象にすることが増えています。この場合は違法有害情報の対策を行います。

### 3 | 闇バイト判定クイズアプリの開発

警察庁の有名な統計情報として受け子のうち5人に1人が少年という言葉があります。近年の特殊詐欺の検挙人員のうちの約20%

を少年が占めるという状況が続いています。このことから、若年層における闇バイト等へのさらなる教育が求められています。比較的簡単にこの問題に取り組むことができるように、サイバー防犯教室等で利用することが可能な闇バイト判定クイズアプリケーションを開発しました。

このアプリケーションは、Webシステムとして簡単に動作することができるために、どのような環境においても簡単に利用することができ、実際の闇バイトの募集を容易にイメージすることができるようになります。実装はPython(Flask)で行っています。



図1：闇バイト学習用クイズの問題の画面例

クイズの画面は、簡単な○×クイズとなっており、選択した内容によってその問題の解説が表示されます。最近は判断が難しい闇バイトの募集も多くありますので、問題の後の解説でそれを説明します。募集の文例は少年補導員の知見を元に生成AIで加工を行って、アプリケーションで利用可能な形式に整形しています。

#### 参考文献

- 警察庁, 令和6年度における特殊詐欺およびSNS型投資詐欺・ロマンス詐欺の認知・検挙状況について, <https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/hurikomesagi.toukei2024.pdf>
- 警察庁, サイバー防犯ボランティアの取り組み 文教大学サイバー防犯ボランティア, <https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/what-we-do/ppp/volunteer/kanagawa.bunkyo.html>